

ティルト式手押し型車いす

RVpocket II V

取扱説明書

RVpocket II Vを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

RVpocket II V の特長

■ ブラッシュアップポイント

- 押し手ハンドルの高さ調節が、簡単に操作できるボタン式になりました。
- 車載固定が標準装備になりました。座フレームの後部と新たに前足フレームの4か所に車載固定部を設けました。
- LLサイズにも背高さ調節がつきました。

■ オプション

- 日よけの生地は遮光率100%、UVカット全面90%以上、さらに防炎加工が施されています。
- 身の回り品や吸引器などを搭載する方にはアンダートレイが装着できます。
- 姿勢が前に丸くなるお子様には、胸肩ベルトも装着できます。
- 胸のベルトには、身体のそばからしっかりサポートできるトランクサポートベルトも選択できます。
- 体幹と骨盤のパッドは、ハイタイプも選択できます。
(LLサイズはハイタイプが標準)
- パーツの交換によって背座間角度(バックサポートとシートの間の開き角)を変更できます。
(105度 or 115度)※95度が基本設定



目次

■ 安全にお使いいただくために	P1・2
■ 各部の名称	P3
■ 製品構成	P3
■ オプション部品	P3
■ 使用前点検	P3
■ 各部の取り扱い	P4・5・6・7・8
■ 開き防止ベルトの取り扱い	P9
■ 開き防止ベルトの使用方法	P10
■ 前後足連結バー引っぱりバネ	P11
■ 調節スリングシート	P11
■ 体幹サポートインナーパッドの取り扱い	P12
■ 折りたたみ方・開き方	P13・14
■ 車いすの取り扱い	P15
■ アンダートレイの取り扱い	P16
■ 上肢保持用テーブル	P17・18
■ アームガード・フラップ式の取り扱いについてのご注意	P19・20
■ 車載使用(走行する車両において座席として使用)についてのご注意	P21・22
■ アームサポート金具の取り扱い	P23
■ 仕様・お手入れ・メンテナンス	P24
■ MEMO	P25・26

安全にお使いいただくために



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

本書記載事項以外の使用はしないでください。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。

- 🚫 本人を乗せたまま放置しないでください。
- 🚫 はずみをつけたり、つき放したりしての移動(走行)はしないでください。
- 🚫 フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。
- 🚫 ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたまでの使用はしないでください。
- 🚫 エスカレーターでは使用しないでください。(一般的にも禁止されています。)
- 🚫 子供に操作させないでください。
- 🚫 坂道での駐車はしないでください。
〔ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があり大変危険です。やむをえず駐車するときは必ず介助者が付きそってください。〕
- 🚫 座席やバックサポート、フットサポート等に立たせないでください。
- 🚫 本人を座らせたままで、本体を抱えて移動しないでください。持つ位置によって、各部角度可変機構が急に動いてしまったり、下フレームが急に折りたたんで介助者の手をはさむおそれがあり、大変危険です。
- ❗ 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。
(身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方医や取り扱い業者にご相談ください。)
- ❗ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。
- 🚫 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。
- ❗ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。
- 🚫 改造や分解はしないでください。

⚠ 注意

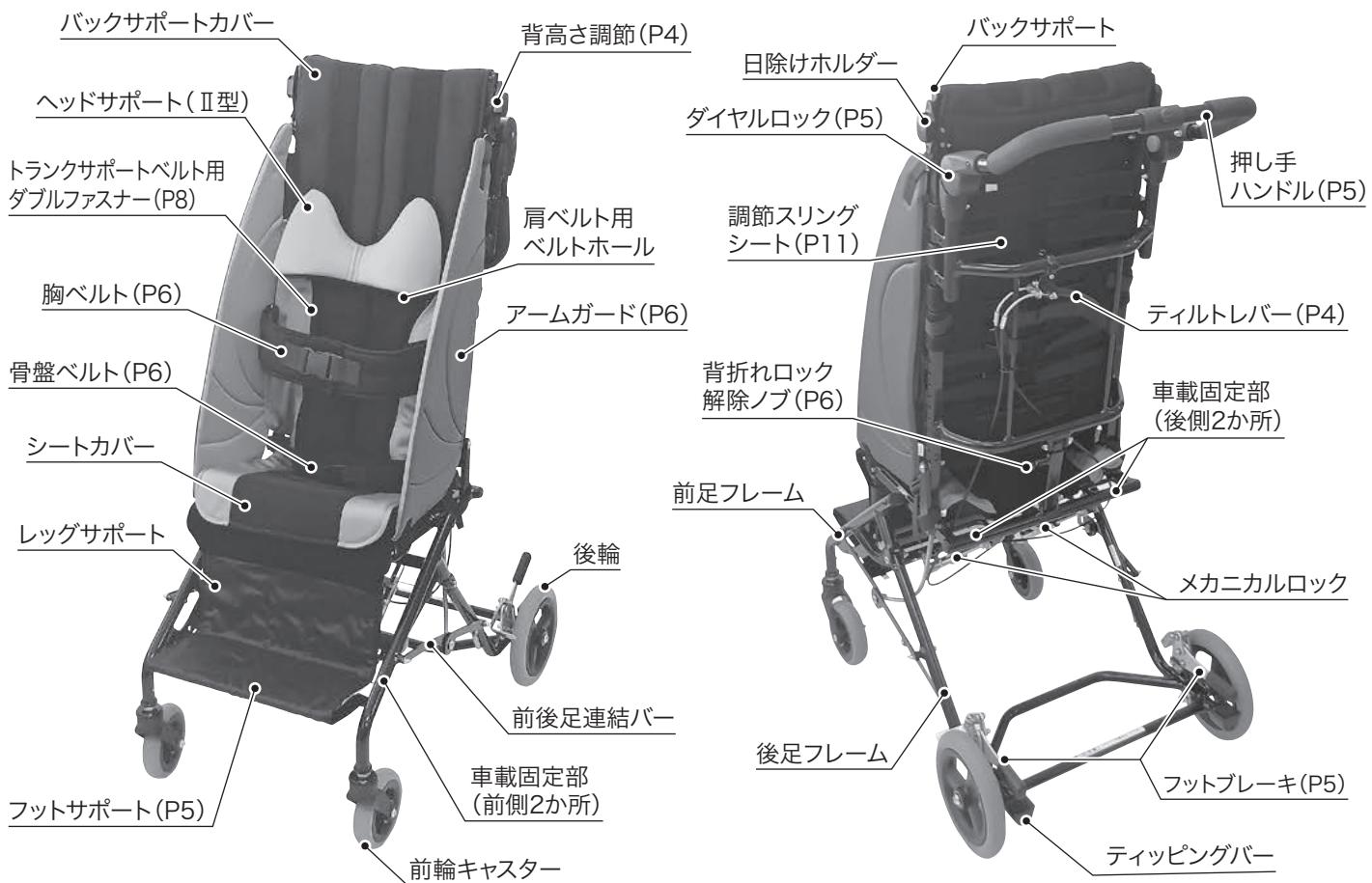
使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、
または物理的損害が発生する可能性が想定される事項です。

- ❗ 医師の処方で製作された場合
- 🚫 本人以外での使用はしないでください。
(個人用に処方された補装具となりますので、安易に貸し出したりしないでください。)
- 🚫 処方目的以外での使用はしないでください。
- ❗ 段差越えの際のキャスター上げ操作はティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、けがのおそれがあります。(段差越えについては15ページを参照してください。)
- ❗ エスカレータの出入り口付近(特に手すり巻き取り部)、エレベータ、自動ドア等の付近で使用する際は、はさまれないよう注意してください。
- ❗ 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- ❗ 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。

- !** 製品を持ち運ぶときは、折りたたんだ製品が不用意に開かないように開き防止ベルトでしっかりと固定されていることを確認してください。(開き防止ベルトについては9ページを、持ち運びについては10ページを参照してください。)
- !** 本人が座った状態でのリクライニング操作は、体重がかかり急に倒れことがありますので十分に注意してください。
- !** 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- !** 走行する車両内で座席として使用する場合は、この取り扱い説明書の本文(P21～P22)をよく読んで理解し、搭乗者もしくは保護者(入所施設の責任者など含む)の責任において実施してください。事前に車椅子固定装置の取り扱い説明書をよく読んで理解し、正しく使用してください。
- !** 車椅子を車両に固定する際は、車両に設けられた車椅子固定装置を使用してください。事前に車椅子固定装置の取り扱い説明書をよく読んで理解し、正しく使用してください。
- !** 折りたたみ、および開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- !** 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- !** 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- !** 押し手ハンドルに重い物を引っ掛けないでください。(後方に倒れることがあります。)
- !** 子供がバックサポートなどにぶらさがらないようにしてください。バックサポートなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があり大変危険です。
- !** 子供の遊び道具として使用しないでください。
- !** 保護者・介助者等が寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- !** 調節スリングシートやインナーパッドが不適切な状態での使用はしないでください。
- !** シートを取り外した状態での使用はしないでください。
- !** 気温の差が激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- !** 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- !** 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- !** リクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- !** 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- !** 定期的に処方医・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- !** からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方医のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- !** 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながることがあります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- !** 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落としたり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- !** 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。メカニカルロックは特に水にぬらさないよう注意してください。
- !** 水中の使用は絶対にしないでください。
- !** 荷物等の運搬に使用しないでください。
- !** 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには(不要になったときには)取り扱い業者にご相談ください。

各部の名称



製品構成

	個 数
■ 基本フレーム	1
■ 調節スリングシート(背・座)	1
座面前方ウェッジ	1
レッグサポート	1
■ シートユニット	1
バックサポートカバー	1
シートカバー	1
アームガード	左右1対
ヘッドサポート(II型)	1

オプション部品

■ 日よけ	
■ 介助ブレーキ	P8
■ 転倒防止装置	P8
■ アームサポート金具	P23
■ 上肢保持用テーブル	P17.18
■ ヘッドサポート(I型)	
■ 座クッション(セミモールド)※S、M、Lのみ	P8
■ アンダートレイ	P16
■ 体幹サポートインナーパッド(体幹・骨盤)	P12
■ 胸ベルト・骨盤ベルト	P6
■ 胸肩ベルト	P7
■ トランクサポートベルトI型	P8
■ トランクサポートベルトII型	P8
■ 骨盤サポートベルト	
■ 背折れ機構部品105度/115度	
■ アームガード、フラップ式	P19.20

使用前点検

- ◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。
- ◎折りたたんだ状態から、正しく拡げられていることを確認してください。
- ◎リクライニング機構やティルト機構がスムーズに作動することを確認してください。
- ◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。
- ◎前輪キャスターや後輪にヒビ割れや欠け、破損がないことを確認してください。

各部の取り扱い

■ティルトの方法

ヘッドサポートからフットサポートまでが一体となって背座間角度一定のまま、後方に傾きます。ティルトの角度設定は、レバーで無段階に調節がおこなえます。レバーを握るとロックが解除され、握ったまま任意の角度に設定したら、レバーをはなしてください。その角度でロック(角度固定)できます。



- リクライニングやティルト角度を調節するときは必ず両手で操作をおこなってください。乗っている方の重さで急に傾くことがあります。大変危険です。乗っている方の体重を支えるように操作してください。
- ティルトレバーのあそびが多くなってきたら、操作がスムーズにできなくなります。そのようなときはワイヤーの張り調整をおこなってください。
- お子様には絶対に操作させないでください。

■背高さ調節

使用される方の成長変化に合わせて、ヘッドサポートパイプの高さ調節がおこなえます。初期設定より30mm間隔で伸ばすことが出来ます。ボルト・ナットによる差し替え式です。

高さ調節をおこなう際は、①アームガードの織テープを一度緩めて、②バックサポートカバーと背スリングシート上端、分割式のセンターシートも一旦剥がしてください。③～④高さ調節をおこなった後にスリングシートとバックサポートカバーを張り直してアームガードの織テapeを引き直してください。

高さ調節をおこなうと、日よけの高さも同時に変わります。



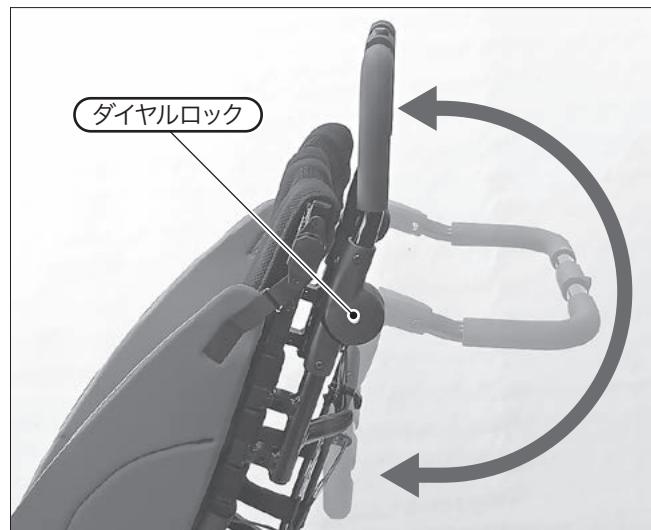
- 高さ調節をおこなう際は、必ず左右の高さを揃えてください。
- 調節をおこなった際は、ボルト、ナットにゆるみ、締め忘れがないようご注意ください。

各部の取り扱い

■高さ可変押し手ハンドル

バックサポートの角度によって、押しやすい高さに調節できる可変式の押し手ハンドルです。

押し手ハンドルの根元にあるダイヤルロック内側のボタンを指で押し込むとロックが解除されて、押し手ハンドルがフリーに動きます。押し手ハンドルを押しやすい高さに調整したらボタンから指を外してください。ダイヤルの最も近い刻み位置でロックがかかり、押し手ハンドルが固定されます。折りたたんだ際に、押し手ハンドルの設定を変えると折りたたみサイズをコンパクトにすることができます。



- ダイヤルロックを操作し、押し手ハンドルの角度を変更したときは、ロックがかかって押し手ハンドルが固定されていることを必ず確認してください。例えば、ダイヤルロックのボタンが押し込まれたままになってロックがかかっていないと、押し手ハンドルが急に上がったり下がったりして危険です。
- 子供がぶら下がったりしないよう注意してください。またかばんや荷物をかけないでください。
- 高さを調整するときには、ダイヤルロックの隙間で指や皮膚をはさまないよう注意して操作をおこなってください。

■ブレーキ

停車するとき、乗り降りのときに使用してください。

ブレーキレバーを下方に倒すとブレーキがかかります。そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。



- 乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。
- 坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
- ブレーキの効きが弱く感じられる場合は停車中に動き出すことも考えられ危険です、すみやかに取り扱い業者にご相談ください。

■座奥行き調節とフットサポートの高さ調節

使用される方の大腿長、下腿長に合わせて座奥行きの調節とフットサポートの高さ調節ができます。ボルト・ナットによる差し替え式です。

座奥行き調節は10mm間隔で、フットサポートの高さ調節は10mm間隔で調節できます。

(Sサイズのフットサポートは20mm間隔)



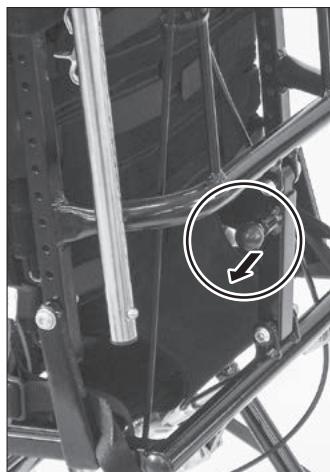
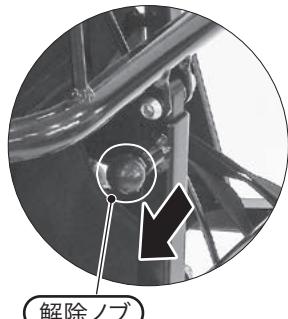
- 高さ調節をおこなう際は、必ず左右の高さを揃えてください。
- 調節をおこなった際は、ボルト、ナットにゆるみ、締め忘れがないようご注意ください。

各部の取り扱い

■背折りたたみロック解除

バックサポートを折りたたむ際に操作します。バックサポート後面にある解除ノブを引くと、ロックが解除されてバックサポートが折りたたみます。バックサポートを開くだけで、自動的にロックされますが、使用前にはロックがかかっていることを確認してください。また、このロック解除部は背座間角度（バックサポートとシートの間の開き角）の設定部品をかねています。部品交換により、背座間角度の変更（※）もおこなえます。

（※）購入後に背座間角度を変更した場合、アームガードの一部にたわみが生じます。不具合がみられるときは取り扱い業者にご相談ください。



折りたたみ時（ロック解除）



開く時（自動ロック）



- バックサポート開閉時（折りたたみ・拡げ時）に手や指をはさまないよう、持つ位置に注意して開閉をおこなってください。
- 解除ノブのロック機構とその周辺には油や潤滑剤などを絶対に注入しないでください。背折りたたみ機構と解除ノブに油分が付着すると使用中にバックサポートが急に折りたたまれてしまい転落や転倒等のおそれがあります。油分が付いたら速やかに除去してください。

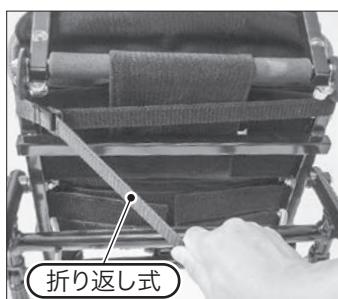
■アームガード張り調整

アームガードのたわみが目立ってきたときに張り加減を調整できます。

アームガード上端の引きしろ（ループ）をもって、アームガードの斜め下へ引き直してください。

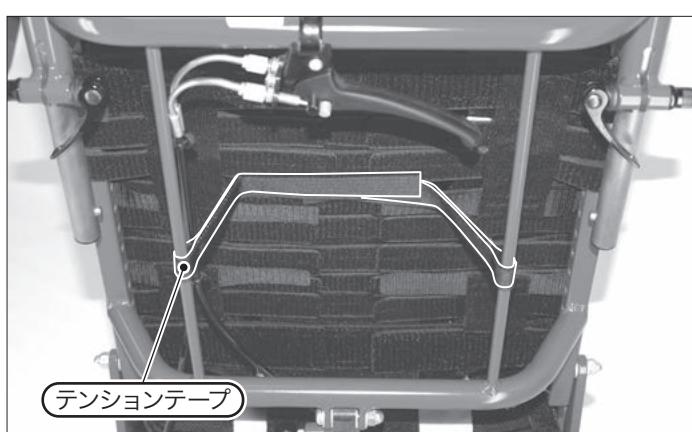
※ループはバックサポートカバーとスリングシートの間に差し込んでいます。調節時に出し入れしてください。

アームガードの下部は座フレームの裏側で左右折り返し式のベルトによって取り付けられています。ゆるみがないよう、しっかり取り付けてください。



■背スリングシートのテンションテープについて

RVpocket II vでは、背スリングシートの余分な揺れを減少させサポートインナーパッドの支持力を向上させる目的で、背スリングシートを後方に引っ張るテンションテープを装備しています。背スリングシートの調整をおこなう際は、テンションテープを一度ゆるめて、調整後にはしっかりと引き直してください。



■胸ベルト・骨盤ベルトの装着について

処方上必要とされたベルト類は、姿勢保持と安全のために必ず装着してください。

ベルトのバックルをカチッと奥までしっかりと差込んで、外れないことを確認してください。

胸ベルトは、取り付け高さと長さ、骨盤ベルトは長さの調節ができます。



- ベルトを装着せずに走行すると、転落のおそれがあります。
- 安全のために常にベルトを装着することをおすすめします。

各部の取り扱い

■胸肩ベルト(オプション)

基本仕様の胸ベルトに肩ベルトが付いた形式となります。肩ベルトは、頭部や体幹部が前のめりに屈曲してくるときに姿勢を整えるために用います。肩ベルトの付け外しはバックル式とマジック式の2種類あります。

ベルトホールの位置で体格や成長に合わせて肩ベルトの高さ調節がおこなえます。

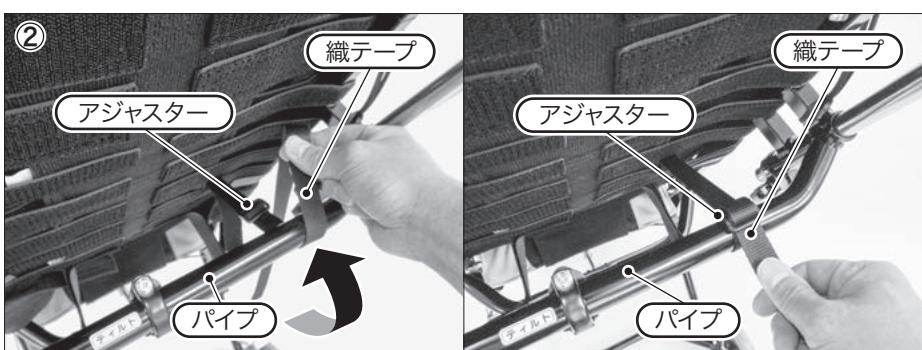


〈取り付け方法〉

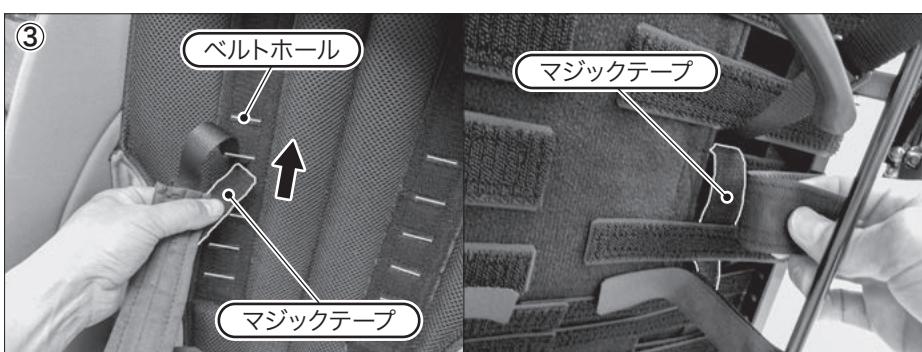
①肩ベルト用パッドに織テープを通し、最も肩に近い高さのベルトホールに織テープを通してください。



②バックサポート裏のティルトレバーが付いているパイプに織テープを折り返してアジャスターに通してください。このアジャスターの部分で長さ調節がおこなえます。



③肩ベルト用パッドが肩に適切に添う位置になるようパッドから出ているマジックテープをベルトホールに通して、バックサポート裏面のスリングシートに貼り付けて位置調整を行ってください。



- 肩ベルトのパッドは、決して外さないでください。ベルト本体の織テープのみでは、材質が硬質なためパッドを装着して当たりを和らげる目的と機能があります。
- 頭が一方向に傾いて首が肩ベルトに擦れてしまうような場合は、姿勢そのものの再調整が必要なこともあります。無理に使用を続けずに医療機関にご相談ください。

各部の取り扱い

■トランクサポートベルト(I型、II型オプション)

身体により近いバックサポートカバーのダブルファスナーから取り出しているため、外側からの胸ベルトよりも高いホールド力を得ることができます。

長さと取り付け高さの調節がおこなえます。(マジック式)

取り付けの際、高さを合わせる目安としては、わきの下に指一本分のすき間を空けるようにしてください。開口部のダブルファスナーは、ベルトにあたるところまで上下からしっかりとじてください。

正面のバックルをカチッと奥までしっかりと差し込んで、外れないことを確認してください。

I型は、SS、S、M、ML、L、LLの6サイズ、II型はS、M、Lの3サイズです。



■座クッション(セミモールド)(S、M、Lのみのオプション)

座クッションには、臀部の前すべりを防ぐ目的のアンカーサポート(ウェッジ)と脚の開きを支える外転防止パッドが備わっています。クッションの形状でアンカーサポートの機能をもたせていますが、さらに座スリング調節で矢状面方向の調整をおこなうことも可能です。カバーを洗濯する際は後方のファスナーを開けて、必ず中のウレタンクッションを取り出してください。



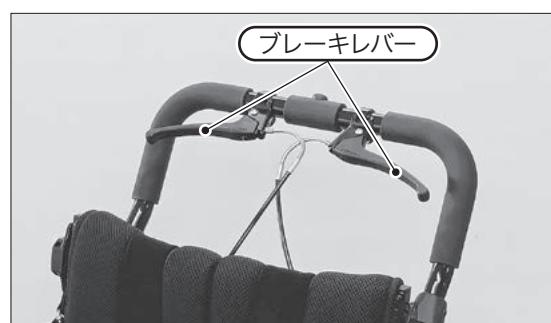
- 決してクッションが入ったままで洗濯しないでください。ウレタンクッション、カバーともに乾かないばかりか、ウレタンクッションそのものが劣化してしまいます。



■介助ブレーキ(オプション)

走行中や坂道でスピードを加減するブレーキです。

ブレーキレバーは、両方同時に均等な力で握ってください。片側だけ強く握ると、車いすの向きが急に変わってしまい危険です。



- 介助ブレーキの効きが弱くなってきたと感じたときは、ブレーキ本体にあるマイクロアジャスターなどでワイヤーの張り調整をおこなってください。

■転倒防止装置(オプション)

使用されている環境条件(坂道や傾斜があるなど)や、またはティルトしたときの後方安定性に不安定な様子がみられたときは、転倒防止装置の取り付けをおおすすめします。

〈取り付け方法〉

ティッピングゴムを外し転倒防止装置を差し込んでください。

プッシュボタンを押しながら、パイプに差し込みます。プッシュボタンがパイプ下側にあけられた穴に飛び出て固定されます。

取り付けた後は、転倒防止装置が確実に固定されていることを必ず確認してください。



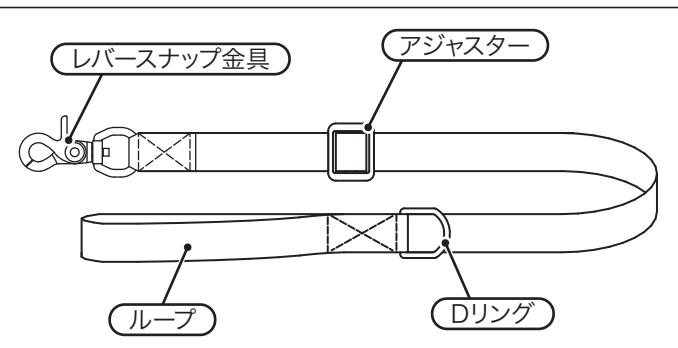
- 転倒防止装置は後方への安全を確保するための装備です。そのためティッピングによる段差越えは困難になります。段差を越えるときは、段差の少ないところを探すか、後ろ向きに後輪から上がるようにしてください。
- 転倒防止装置と地面の間で足などをはさまないよう注意してください。

■開き防止ベルトの取り扱い

開き防止ベルトはRVpocketⅡvを折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。取り扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

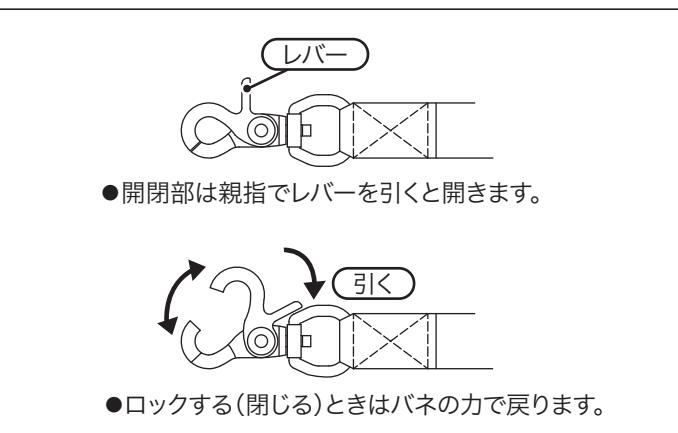
■開き防止ベルト・各部の名称

- 折りたたみ後、手順にしたがってフレームに巻き、レバースナップ金具をDリングにかけて使用します。
- レバースナップ金具の開閉部が正常に動くこと、ロックされることを常に確認してください。
- 折りたたんだときの厚みによっては、アジャスターでベルトの長さを調節してください。



■レバースナップ金具の取り扱い

レバースナップ金具をDリングにかけるときは、レバースナップ金具の根元周辺部を握り、レバーを親指で引いて開いてください。開いたままDリングにかけたら親指を離してください。自動的に閉じてロックがかかります。



- レバースナップ金具の開閉部で指などをはさまないように注意してください。
- Dリングにかけたら、ロックされていることを必ず確認してください。

■バギー本体への取り付け方法

開き防止ベルトは、左右どちらかのバックサポートパイプに取り付けます。(出荷時は左側に取り付けています)

取り付け位置は上からおよそ1/3を目安にしてください。バギーを折りたたんだときに、開き防止ベルトを後足フレームの車輪付近でしっかりと巻くことができます。



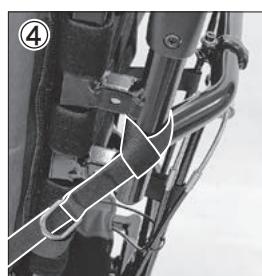
開き防止ベルトのループ側をバックサポートの写真の位置に内側から通してください。このとき、Dリングが外側を向くようにベルトの表裏を合わせてください。



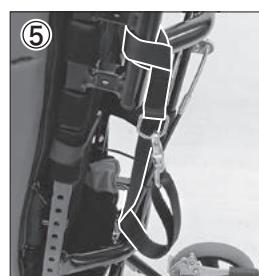
ループにレバースナップ金具をくぐらせてください。



ベルトがねじれないよう注意して通してください。



ループのところに余分なあまりやゆるみがないようベルトをしっかりと引きしてください。



通常の使用(折りたたんだとき以外)ではベルトがぶらつかないようにレバースナップ金具をDリングにかけてください。

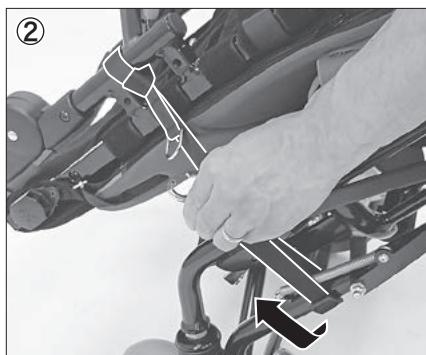


- 開き防止ベルトに搭乗者が手指をからませたり、また周辺の人や物にひっかかるないように注意してください。
- メンテナンスやシートの洗濯などにより開き防止ベルトを取り外したときは、必ず取り付け方法の説明にそって取り付け直してください。取り付けたら、折りたたみ操作をおこないレバースナップ金具がDリングにかかることを必ず確認してください。

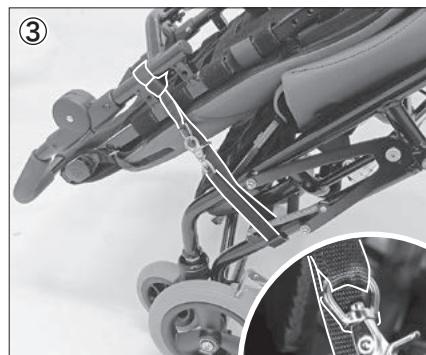
開き防止ベルトの使用方法



折りたたんだら、写真のように開き防止ベルトを後足フレームの内側へ通します。ベルトがねじれないように注意してください。



後足フレームを巻くようにして折り返し、レバースナップ金具を操作してDリングにかけてください。



バギーを持ち上げる前にレバースナップ金具の開閉部が閉じていて、Dリングに確実にかかっていることを確認してください。



- 開き防止ベルトを使用するときは折りたたんだフレーム部、各部で指などをはさまないように注意してお取り扱いください。
- 持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトを正しくとめて、レバースナップ金具の開閉部が閉じていることを確認してください。
- 開き防止ベルトをとめていなかったり、とめ方が不適切な状態(ベルトの通し方に誤りがある、レバースナップ金具の開閉部が閉じていないなど)では、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくとめてください。
- ベルトおよびレバースナップ金具の損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいると、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。
- 車への積み降ろしなど、抱え上げるときは下記の説明にしたがい十分に注意して取り扱ってください。誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ・周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。

■車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意



- 自動車のトランク(荷室)に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。

図Ⓐのように、後輪のついている後足フレームをつかんで、下からバギー全体をかかえるようにして持ち上げてください。



○後足フレームを持ち、全体をかかえてください。

図ⒷⒸのように、バックサポートのパイプのみ、もしくは前輪キャスターのついている前足フレームだけをつかんで持ち上げることはしないでください。持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい手や指をはさむおそれがあり危険です。



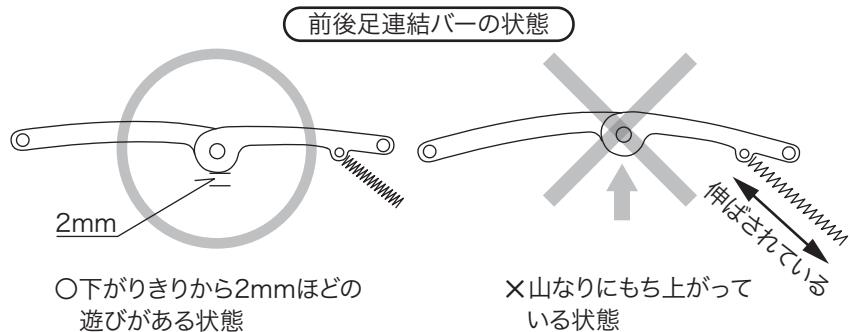
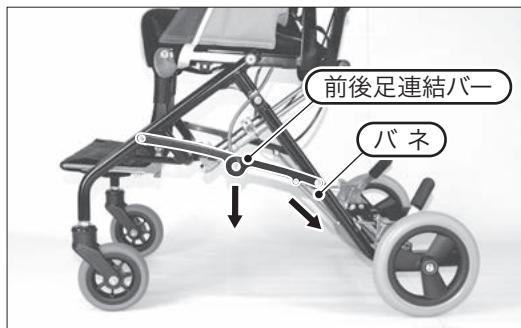
✗背パイプのみを持っている。



✗前足フレームのみを持っている。

前後足連結バー引っ張りバネ

本製品は、使用(走行)中に、下フレーム(前・後足フレーム)が折りたたまないように、前後足連結バーをバネで引く構造になっています。このバネは、安全のために重要な部品であるため、簡単に外れてしまわないよう、十分に注意して組み立てておありますが、使用期間中のバネそのものの変化や何かに引っかけてしまったなどにより、バネが伸びきっていたり、外れたり、または折れたりすることが考えられます。使用前には、バネの状態(伸び過ぎや破損)とバネが外れていないことを確認してください。バネの破損などに気付いたときは、すぐに取り扱い業者にご連絡ください。



以下の5点について、点検してください。

- 前後足の連結バーの中心が、ちゃんと下がりきっているか?

(前後足連結バーがしっかりとつっぱった状態になっていることを必ず確認してください。)

《前足、後足フレームを前後から押して連結バーの中心部が下がること。》

中心部が上に持ち上がっていると、前後足フレームが折りたたんでしまうため大変危険です。)

- バネは2本とも、きちんとついているか?

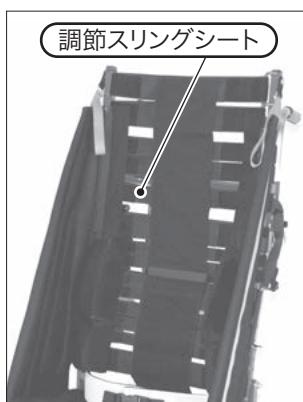
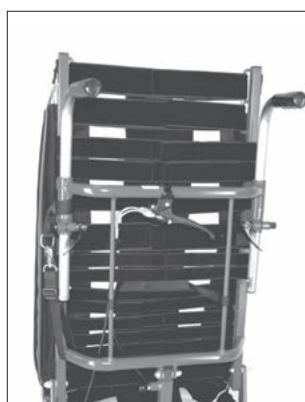
- バネの取り付け部分が伸びて、はずれそうになっていないか?

- バネが部分的に伸びきっていないか?

- 前後足連結バーを指で持ち上げたとき、バネが下方向にしっかりと引っ張っているか?

❶ 前後足連結バーを持ち上げるときは、中心より外側の部分を扱ってください。中心付近は指をはさむおそれがあります。

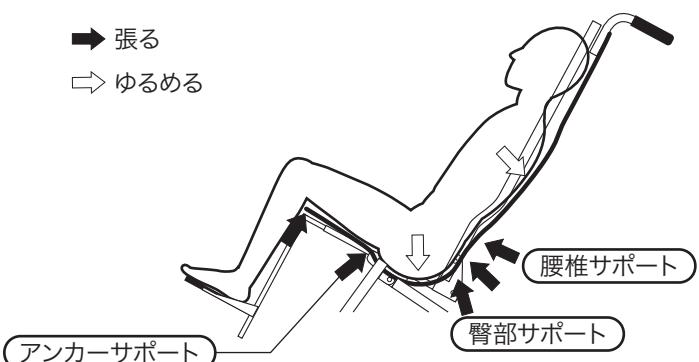
調節スリングシート



調整例

→ 張る

⇒ ゆるめる



帯状のスリングベルト(マジック式)の張り加減を調整することで、使用される方の身体特性に個別に対応することができます。

矢状面に加え、水平面の調整もすることができます。

よりこまかく調整がおこなえるようスリングベルトの幅も細く、背スリングを2分割しています。



●長期間使用するうちにスリングシートの伸びが生じことがあります。このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。

バックサポートは、①骨盤の前後の傾き(バックサポート下部)②体幹の前後の傾き(背もたれ中央～上部)③腰部の支え(バックサポート腰部)を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができる、側弯による背中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。

座面は、坐骨前部から大腿部はしっかりと張って、臀部(坐骨周辺)をゆるめてお尻を包み込むようにして、臀部を安定させ前すべりを起きにくくするのが一般的です。

1 体幹サポートインナーパッドの取り扱い

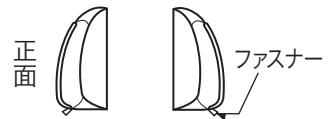
調節スリングシートの張り具合で、骨盤が前方に滑り出しにくくなるように、また体幹部をバックサポートに預けていられるように矢状面のサポートを調節します。調節スリングシートの水平面でのカーブの形状により、側方からのサポートがある程度得られますが、側方からのサポートを追加する目的で体幹サポートインナーパッドを用います。

体幹サポートインナーパッドは、右記のように4個セットになっています。調節スリングシートにインナーパッドを取り付けて、その上からバックサポートカバーを取り付けて使用します。

インナーパッドには、ロータイプとハイタイプがあります。ハイタイプは、裏面のマジック(カタ)の色がグレーです。(ロータイプは黒です。)

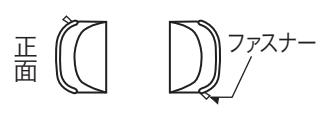
体幹パッド (2個)

- 左、右別
- ファスナーがついている方が外側、先端が細い方が上側です。
- マジック面がスリングシート側です。



骨盤パッド (2個)

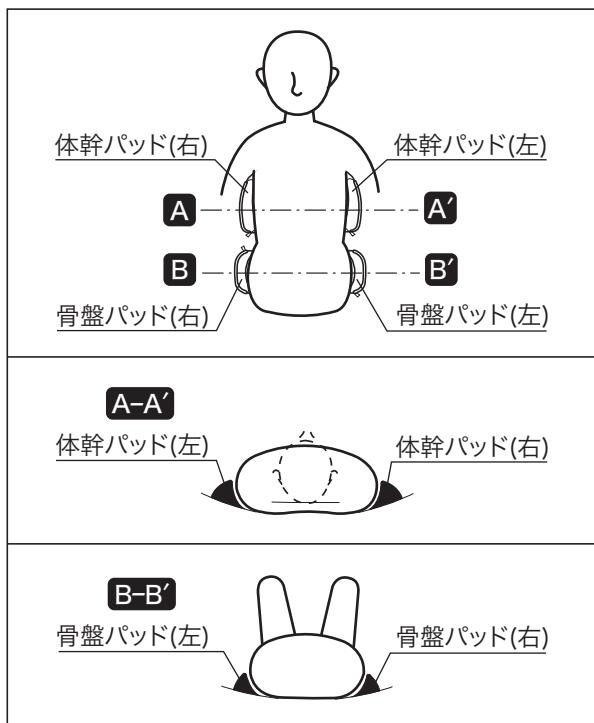
- 左、右共通
- ファスナーがついている方が外側です。
- マジック面がスリングシート側です。



〈インナーパッドの取り付け方法〉

1 調節スリングシートの張り調節を先におこないます。

2 体幹パッド、骨盤パッドを本人の状況・体型に合わせて、またサポートの方向に配慮して調節スリングシートに取り付けます。



体幹パッド

- 側弯などの影響で一方向に体が傾く場合には、取り付け位置・高さが左右非対称になることもあります。
- ろっ骨下部から胸郭の重みを受け止めるように体幹部の側方をサポートし、体幹部の横倒れや水平面方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと胸郭とのくさび状の隙間を埋めるように取り付けます。

骨盤パッド

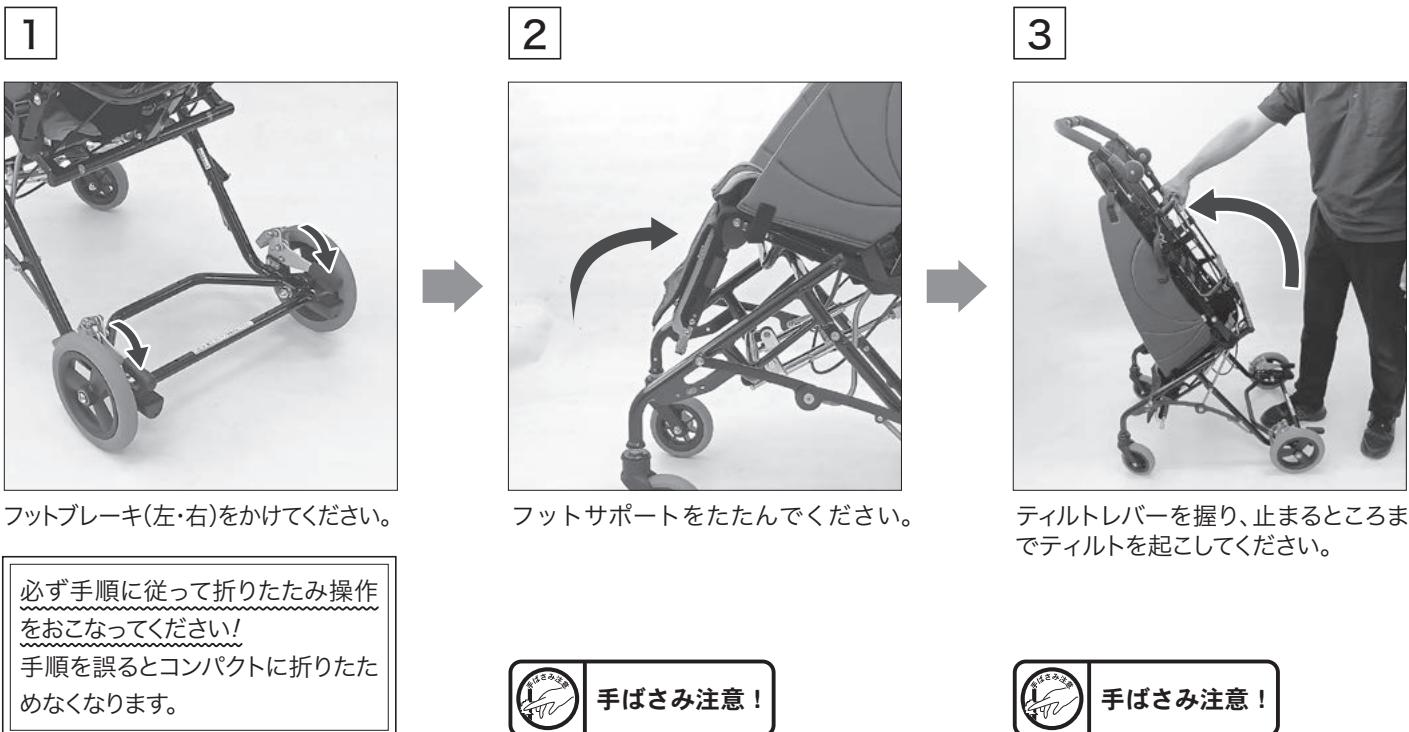
- 骨盤部の中央あたりの高さで、骨盤の傾きなどにも注意して、骨盤部からの横倒れや水平方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと骨盤部とのくさび状の隙間を埋めるように取り付けます。

3 必要に応じてインナーパッドの形状を変更調節します。

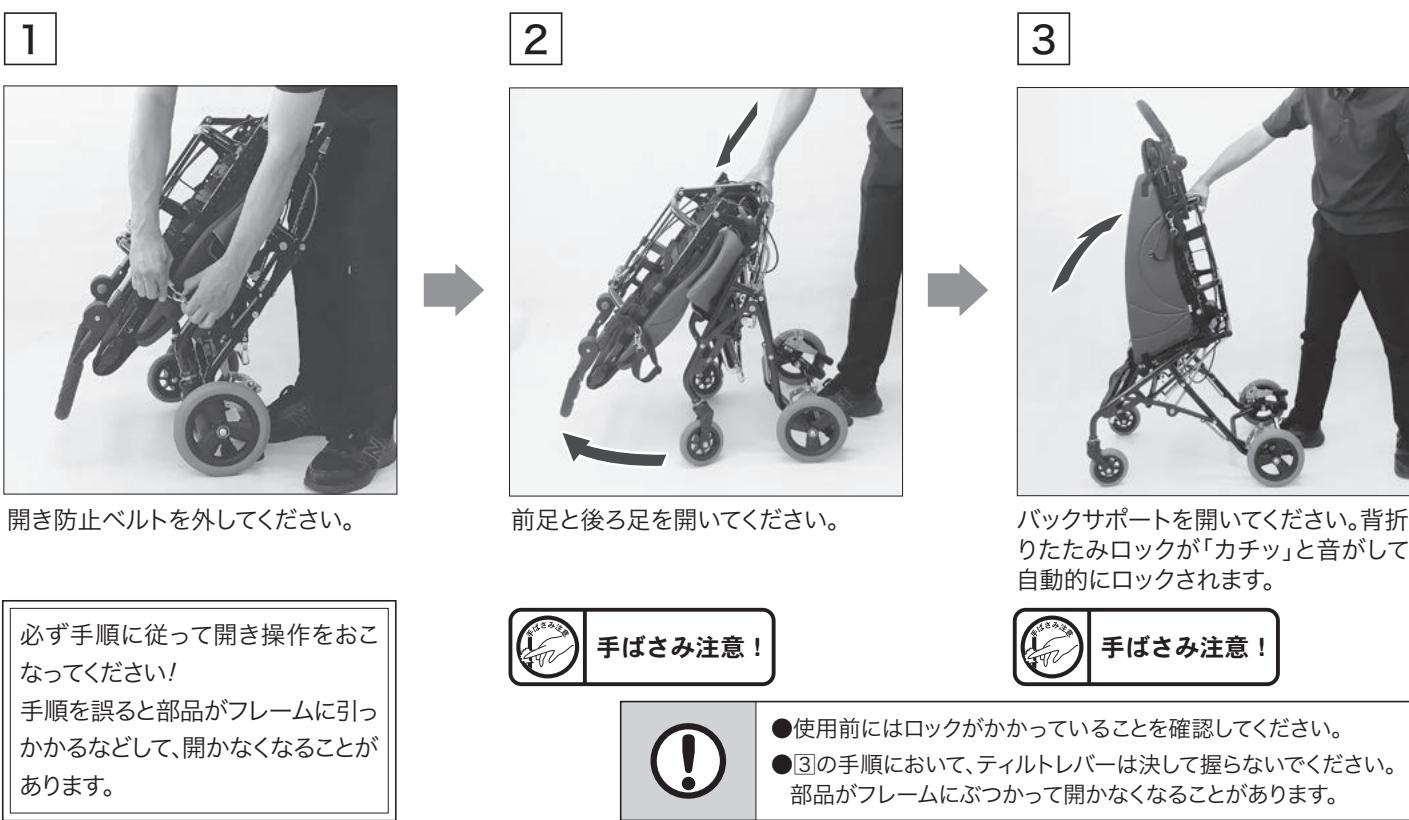
- パッドはファスナー式になっています。必要に応じ、中のクッションを取り出し、クッションを削るなどして形状の調整をしてください。

- !**
- 折りたたみおよび開き操作のときは各部が連動して動きます。指などをさまないよう注意して操作をおこなってください。
 - 周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
 - 傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
 - 折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

折りたたみ方



開き方





- 持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトをしっかりとめて、レバースナップ金具がDリングに確実にかかっていることを確認してください。
- 開き防止ベルトのとめ方が不適切なまま持ち運んだりすると、フレームが不用意に開いてしまい、指や手をはさむ・周辺の人や物にぶつかるなどのおそれがあり危険です。
- 開き防止ベルトの取り扱いについては、9ページを参照してください。

4



背折りたたみロックを解除して、バックサポートをたたんでください。
アームガードは内側へ折り込んでください。



手ばさみ注意！

5



座面後部の丸パイプを持って斜め後方へ(矢印の方向)引き上げてください。下フレーム(前足)が後方にたたまれます。



手ばさみ注意！

6



バックサポートについている、開き防止ベルトで背・後足を固定してください。

4



ティルトレバーを握り、背座フレームを倒してください。

5



フットサポートを開いてください。



手ばさみ注意！

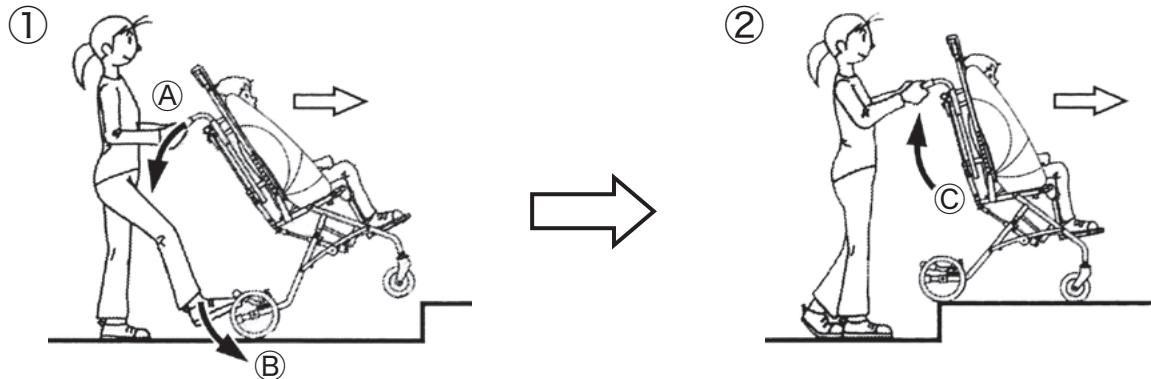
6



開き防止ベルトの金具がぶらぶらしないようにDリングにかけてください。
ティルトリクライニングを適切な角度に調節してご使用ください。また、乗り降りの際は、ブレーキをかけてください。

車いすの取り扱い

段差越えの仕方



①前輪が段差の直前にきたら

- Ⓐ 両手で押し手ハンドルを手前にひきながら…
- Ⓑ ティッピングバーをななめ前方に踏み込むと前輪が上がるるのでこのまま前方に進み、前輪を段上にのせます。

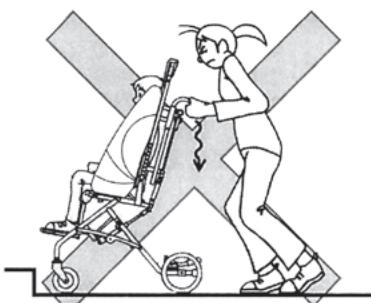
②そのまま進んで後輪が段差の直前にきたら

- Ⓒ 押し手ハンドルを持ち上げて後輪を浮かせ、そのまま前方に進み後輪を段上にのせます。



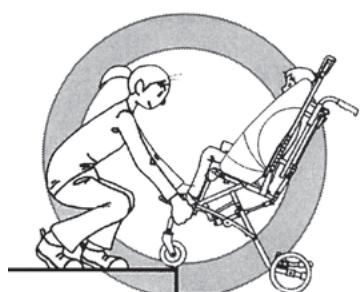
- 絶対に勢いをつけて乗り越えようとしないでください!
(前方転倒や乗っている方の転落、車いすの破損などのおそれがあります。)

④押し手ハンドルだけでの前輪上げは禁止!



ティッピングバーを利用せずに押し手だけの操作で無理に前輪を上げようすると車いすが破損するおそれがあります。
必ず押し手とティッピングバーの両方を利用して下さい。

後方からの段差越え操作がむずかしい場合は車体前方を直接持ち上げる

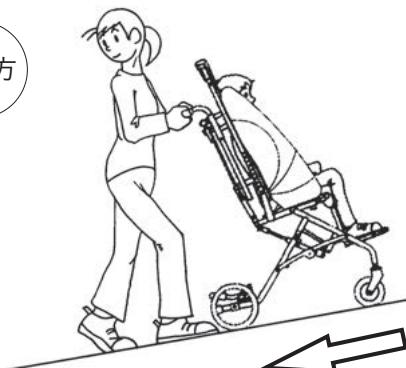


リクライニング車などで後輪位置がより後方にある場合は、押し手とティッピングバーの操作での段差越えは困難な場合があり、無理をすると車いすが破損することがあります。そのような場合は車体前方を持ち上げて段差を乗り越えてください。

坂道での操作について



登り坂



下り坂

坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなってください。登り坂は前向きで、下り坂は図の様に後ろ向きで進んでください。特に下るときに前向きに進むと、前方に転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあり大変危険です。

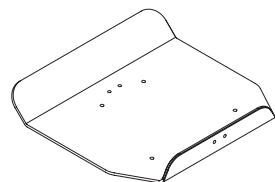


- 押し手ハンドルに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

■ アンダートレイの取り扱い

アンダートレイは、身の回り品や吸引器などを搭載するための台です。アンダートレイを装着したまま、バギー本体を折りたたむことができます。
搭載物をベルト等で固定した方が良い場合は、前後2箇所ずつ空いている穴を利用してください。
※ベルトの販売はしておりません。

■ セット内容



アンダートレイ本体
(塩化ビニール樹脂)

低頭ボルト M5×35ボルト	4本
樹脂ワッシャー	4個
ワッシャー	4個
袋Uナット	4個

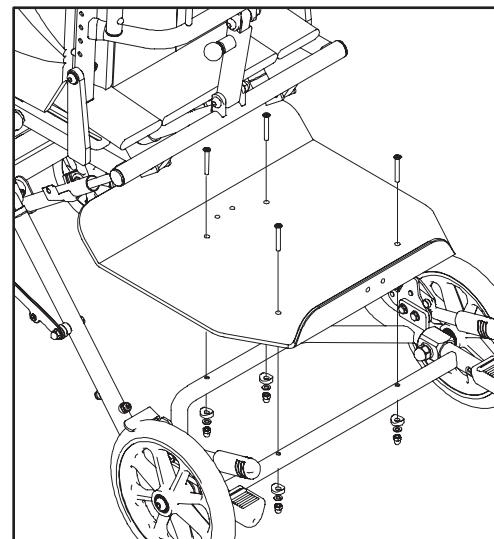
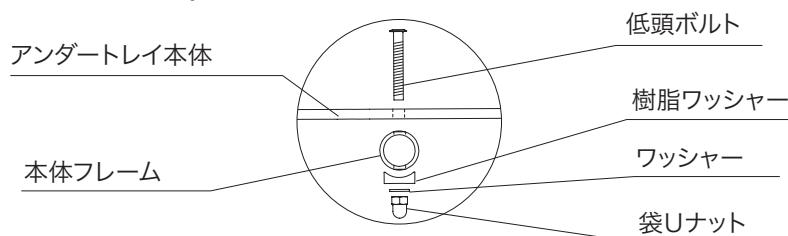
アンダートレイ取付けた状態



■ 取り付け方法

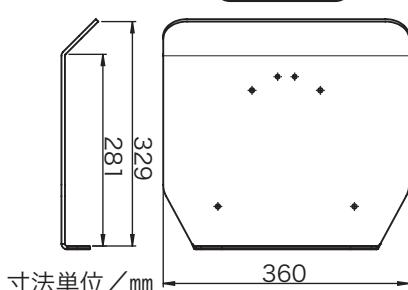
取付けには、No.2のプラスドライバーと8mmの工具を使用します。

- ①アンダートレイの固定用の穴とバギー本体フレームの4ヶ所の穴を合わせてください。
- ②4ヶ所穴がそろっていることを確認したら低頭ボルトを上から差し込んでください。
- ③下図に従って、本体フレームのパイプ下側から樹脂ワッシャー、ワッシャー、袋Uナットの順に手締めで組んだ後、工具を使ってしっかりと締めこんでください。

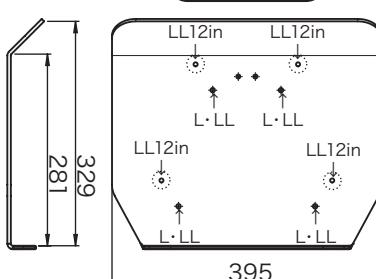


■ 尺寸表

(S用、M用)



(L用、LL用)



※LL用は後輪が8inと12inで穴位置が異なります。点線で囲った穴がLL12in用です。取付けの際はご注意ください。



- 使用前には、確実に取り付けられていることを確認してください。
- 搭載台としての目的以外での使用は決しておこなわないでください。
- 決してアンダートレイを踏んだり、兄弟児が上に立ったり乗ったりしないでください。アンダートレイが破損して怪我をしたり本体フレームが折れ曲がるなどの恐れがあります。
- 直射日光下では表面が熱くなる恐れがあります。取り扱いにご注意ください。
- 火気には近づけないでください。熱くなつて変形したり、火傷する恐れやひどいときには燃えるなどして大変危険です。

上肢保持用テーブル

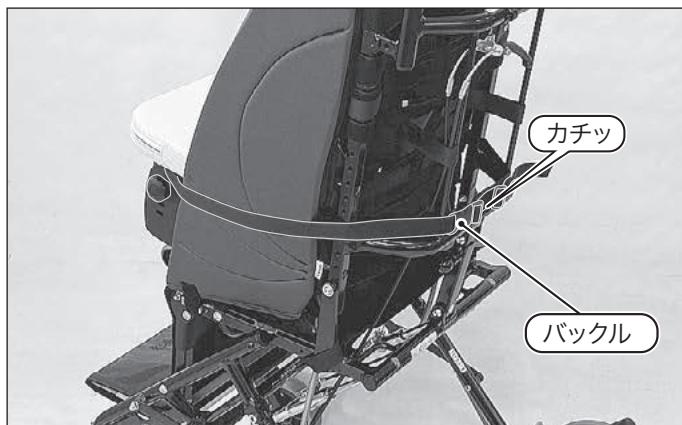


- 腕の重さを支えて身体が側方へ傾かないよう、または自ら肘について(前腕部を支持面に)脊柱を伸展するなど、姿勢保持を目的とした上肢保持用テーブルです。このテーブルはオプション品です。※S、M、Lサイズのみ
- 天板の表面はクッション張り(ビニールレザーカバー仕上げ)で、身体の部分をかわすようにカットアウトしています。
- 成長したときや前腕を受ける角度に対しては、4個のノブボルトの取付け位置を変えることで、テーブルの高さ・角度を変更することができます。
- 外転パッドやモールド座面を選択した場合は、テーブルの脚部が低くなるため、高さ調節範囲は減少します。

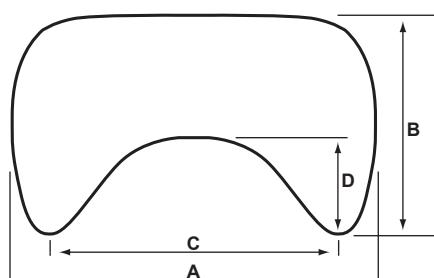
■取付け方法



テーブルをRVpocket II vの座面上に置いてください。



取り付けベルトをRVpocket II vの背面にまわし、バックルで「カチッ」と確実に装着してください。(車載使用時を除く)



天板

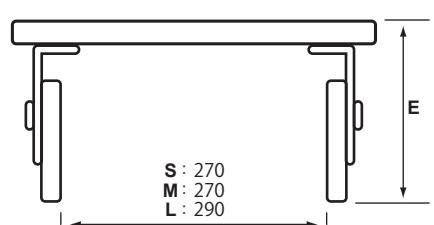
(天板厚40mm)

	A	B	C	D
S サイズ	435	320	330	120
M サイズ	435	320	330	120
L サイズ	475	340	355	135

(単位:mm)

脚部

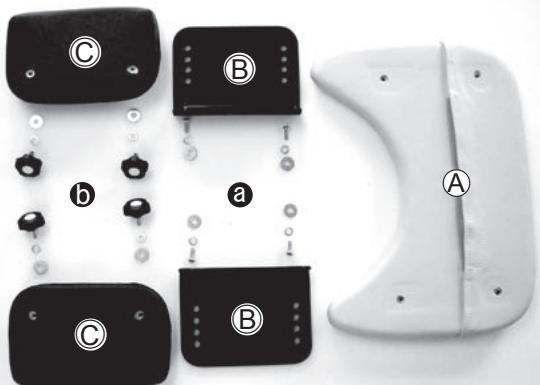
- 高さ調節付(ノブボルト)



	脚基本タイプ E (15mmピッチ)	脚口一タイプ E (15mmピッチ)
S サイズ	180~225	150~195
M サイズ	210~270	170~230
L サイズ	240~315	215~290

(単位:mm)

■セット内容



Ⓐ天板1枚

Ⓒクッション脚 (2枚)

Ⓑ脚高さ調整板2枚(樹脂製)

ⓐ取り付けビスセット

小ネジ (M6)	4本
バネワッシャー	4個
平ワッシャー	4個

ⓑ取り付けノブセット

ノブボルト (M6)	4本
バネワッシャー	4個
平ワッシャー	4個

○取り付けベルト

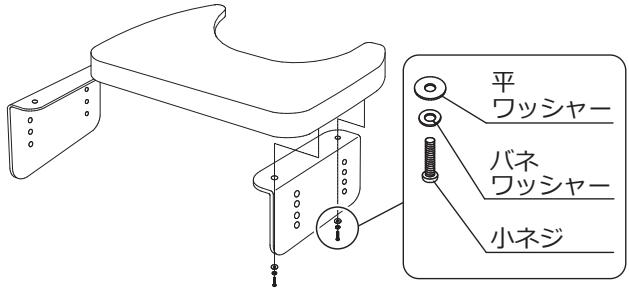
(バックル式) 1本

※写真にはありませんが、脚高さ調整板に付いています。

■組み立て方

①脚高さ調整板の取り付け

●L型の脚高さ調整板を天板の裏面に取り付けます。図のようにL型の長い面がテーブルの外側になります。ワッシャーをセットした小ネジをL型の短い面にある二つの穴に通し、天板の裏面側の穴に仕込んである埋め込みナットに固定してください。



最初はドライバーを使わずに手で小ネジを回し、ネジの先端が埋め込みナットに正しくかみ合った感触を確かめてください。^{※1}一つ目的小ネジが正しくかみ合ったら、2本目の小ネジも手回しで正しくかみ合わせてください。最後にプラスドライバー(3番)を使用し、両方の小ネジが脚高さ調整板に密着するまで締め込んでください。^{※2}

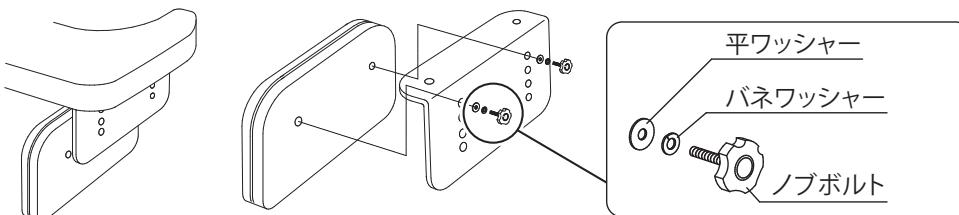
※1埋め込みナットは小ネジの入り具合を目視できないため、最初からドライバーを使って小ネジを回すと傾いて噛み込んでしまいがちです。斜めに入ってしまった小ネジを締め込んでも脚高さ調整板は固定できません。さらに無理をして強く回した場合、埋め込みナットの固定が外れて空回りし、使用できなくなることがあります。

※2一つ目的小ネジを先に完全に締めてしまった場合、二つ目の小ネジを埋め込みナットに合わせるのが極めて難しくなります。



②クッション脚の取り付け

●天板に取り付けた脚高さ調整板の内側面にクッション脚を取り付けます。クッション脚は角が丸くなっている側が上になりますので上下の向きに注意してください。図のようにバネワッシャーと平ワッシャーをノブボルトにセットし、外側から脚高さ調整板の穴を通してクッション脚の埋め込みナットにかみ合わせてください。小ネジのときと同様に2つのノブボルトのネジ先端が正しく入った感触を確かめてからそれを最後まで締め込んでください。脚高さ調整穴のノブボルト取り付け位置をずらすことで、天板に傾斜をつけることができます。



- 火気につづけないで下さい。燃えたり、熱くなったり火傷するおそれがあります。
- 直射日光下では表面が熱くなるおそれがあります。火傷などに十分ご注意ください。
- 踏み台や腰掛として使用しないでください。本機が破壊したり、バランスをくずして転倒するなどしてけがをするおそれがあります。
- 身体の前方に置かれる上肢保持用テーブルは、車載時に、急ブレーキで使用者が前方へ飛び出しかけた場合、腹部を圧迫してしまうリスクも考えられます。ご本人の姿勢を安定させる為に必要不可欠となるケースでは、上肢保持用テーブルの取り付けベルトは使用せず座面に載せるだけの設置にしてください。アクシデントの際に、テーブルは前方に飛び出すことになりますが、腹部の圧迫を避けることができます。飛び出したテーブルが同乗者を直撃しないように、車椅子のすぐ前の席はできるだけ空けておくなどの注意をお願いします。



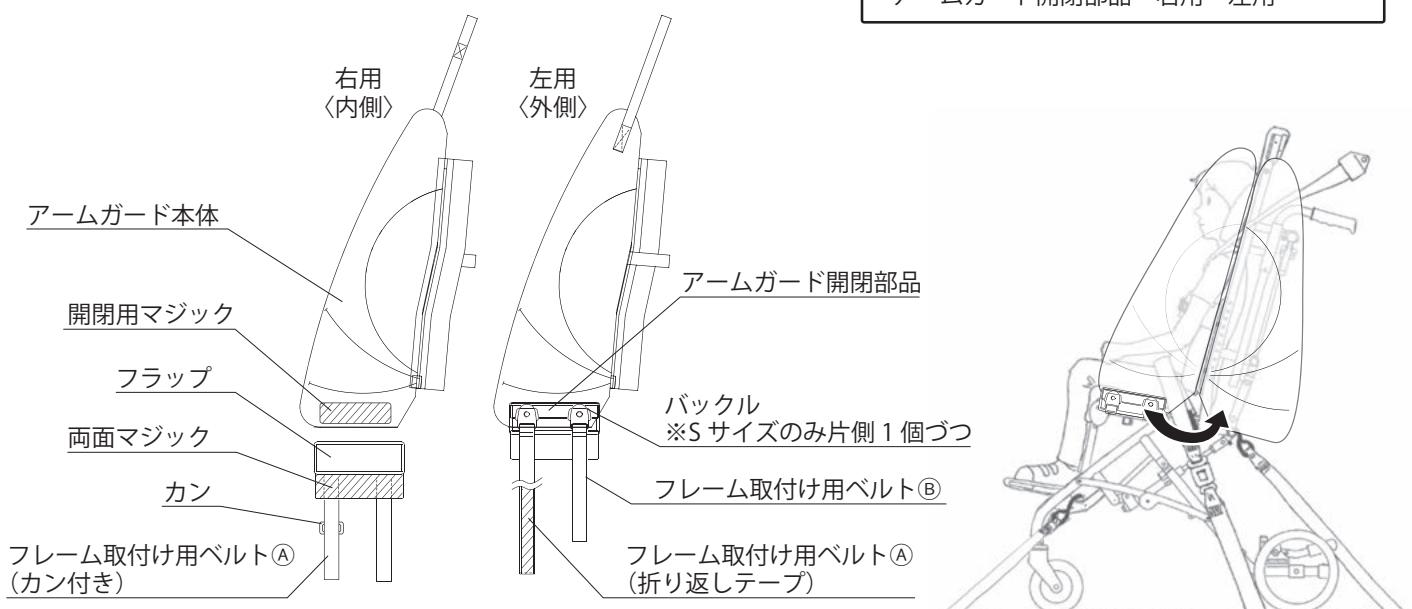
アームガード・フラップ式の取り扱いについてのご注意

このアームガードはバックル操作で簡単に開閉することができます。

移乗や車載などで頻繁に側面側を開放する場合に役立ちます。

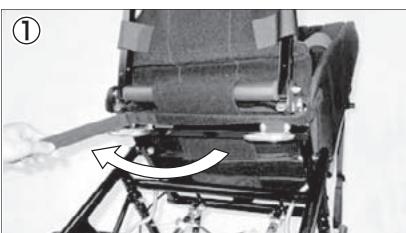
■セット内容

- ・アームガード・フラップ式本体 右用・左用
- ・アームガード開閉部品 右用・左用



■アームガードの付け替え方法

〈取り外し〉



シートカバー やウェッジを外した状態で開始してください。座フレームの裏側に回っている折り返し式のマジックテープを外してください。



座スリングに貼り付けているマジックテープを剥がしてください。

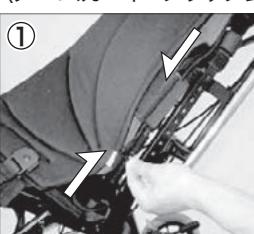


バックサポートに取付けているファスナーを上下に開いて、バックサポート側のファスナーと分離してください。



最後にアームガード上端の織テープを金属カンから抜いてください。これでアームガードが取り外せます。

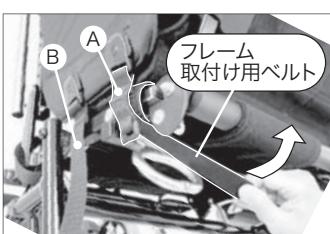
〈アームガード・フラップ式の取付け〉



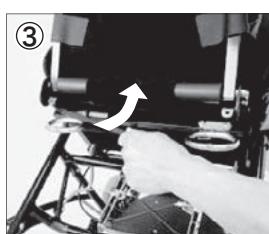
上下それぞれの方向からファスナーを閉じるようにして、アームガードのファスナーとバックサポート側のファスナーを組合せてください。



アームガード開閉部品に縫い付けている両面マジックを座スリングシートに貼り付けます。このとき、アームガード開閉部品のフレーム取付け用ベルトⒶ(カン付きまたは折り返しテープ)を座フレームの一番前のスリングベルトに重ねるよう合わせて、前後位置を決めてください。前後の位置が定またらフレーム取付け用ベルトを座フレームに巻くようにして座スリングシートの裏側にしっかりと貼り付けてください。



アームガード開閉部品のフレーム取付け用ベルトⒶ(カン)を座フレームの一番前のスリングベルトに重ねるよう合わせて、前後位置を決めてください。前後の位置が定またらフレーム取付け用ベルトを座フレームに巻くようにして座スリングシートの裏側にしっかりと貼り付けてください。



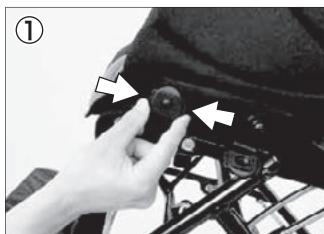
アームガード開閉部品の折り返しテープを反対側のカンに通して折り返し、しっかり固定してください。



最後にアームガード上端の織テープを金属カンに通してください。織テープを引っ張ってアームガードを張ってください。

■使用方法

〈アームガード開閉の方法〉



注意 アームガード・フラップ式は、バギーを車両に固定した後に開いてください。

アームガード・フラップ式のバックルを解除してください。バックルの左右からボタンを押すとロックが解除してバックルが外れます。

アームガード下端、内側の開閉用マジックを剥がしてください。アームガード内側の黒いネオプレンゴム製のフラップが外側に垂れて座フレームを覆います。

アームガード・フラップ式を左右ともに開いた状態にして、車両から出ている三点式シートベルトを装着してください。

〈その他〉



アームガード・フラップ式は、三点式シートベルトを外したら速やかに閉じてください。
アームガード・フラップ式を開じるときは、開くときの逆の手順でおこなってください。

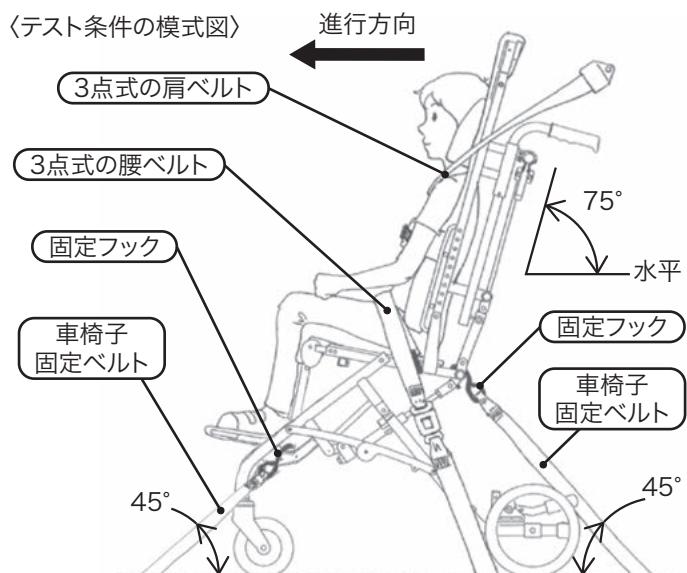


- 車載中は、アームガード・フラップ式を開いたままにしてください。三点式シートベルトを装着してからアームガードを閉じると、シートベルトにアームガードが干渉して身体へのシートベルトの装着が損なわれる可能性があります。
- 必ずアームガード・フラップ式を開いてから三点式シートベルトを装着してください。アームガードを閉じたままで三点式シートベルトを上から装着すると身体とシートベルトに隙間が出来て危険です。またアームガードが破損するおそれがあります。
- アームガード・フラップ式を開いているときに座面から足が落ちてしまう場合は、お医者様やセラピスト、取扱業者の方にご相談して、大腿部のベルトや外転サポートなどの対応策を検討してください。※足がとび出さないようにオプションの上肢保持用テーブルも外転を保持する効果が考えられるのでご検討ください。
- 但し車載した状態でオプションの上肢保持用テーブルを使用する場合は、カーシート用の上肢保持用テーブルをお勧めします。カーシート用の上肢保持用テーブルは、バギー用と構造が異なり、天板中心付近の芯材が無いため衝撃を受けたときに天板の中心から芯材が割れて破断するようなリスクは考えにくく、多少の柔軟性を備えています。

■車載使用(走行する車両において座席として使用)についてのご注意

- ① 本車椅子は国際規格による衝突安全テストである「ISO7176-19AnnexA」に適合しています。これによって、本車椅子がテスト時に採用した使用状態※1(右図参照)であれば、ISOがモデル化した衝突事故で搭乗者が受けるダメージはISOの基準以下※2であり、かつ車椅子は、深刻な二次被害が生じる壊れ方をしない※3ことが確認されています。

※1 (右図参照) 3点式の腰ベルト:中央部が胴と脚の境目で身体に密着し、両端側が床に対して約45°の角度で後方に引かれている。/3点式の肩ベルト:片方の肩の中央付近から対角線状に胴部に密着し、反対側の腰の近くで3点式の腰ベルトに接続している。/車椅子固定ベルト:前後の固定フックが所定の位置に掛けられ、それが床に対して約45°の角度でハの字状に引かれている。/バックサポートの角度:水平からの起き角で75°。



※2 急ブレーキ中の搭乗者の頭の移動量が基準値以下である。/ 急ブレーキ中にずれた車椅子が搭乗者に大きな水平荷重を加える可能性は低い。/ 停止後にバックサポートの角度は変化しておらず、搭乗者は前後左右に大きく傾くことなく車椅子に座っている。

※3 鋭いエッジができる割れ方をしない。/ 搭乗者はシートベルトを外すだけで壊れた車椅子から容易に離れることができる。/ 壊れた車椅子から車椅子固定ベルトを容易に外すことができる。

- ② 本車椅子が備える車載固定部などの車載使用を補助する構造は、すべての車載使用の安全を保障するものではありません。
- ③ 本車椅子に装備された胸ベルト、腰ベルト、肩ベルト等は、通常使用での姿勢保持用のものであり、車両が走行する際の様々な加減速、路面の凹凸、カーブでの揺れなどに対して使用者の身体を完全に支えるものではありません。



- 本車椅子が衝突安全テストに適合した条件に近い使用状態であっても、全てのアクシデントに対応できるものではありません。衝突事故を含む実際のアクシデントは、ISOがモデル化した単純な正面衝突ではない場合が多数であり、本製品の車載安全性には限界があります。
- 車載使用については、搭乗者もしくは保護者(入所施設の責任者など含む)の責任において、実際のドライブ中にやむを得ず急ブレーキや急ハンドルなどの運転操作がなされた場合や、万が一の衝突事故が起こった場合のことを十分に考慮したうえで実施してください。

■車載使用時の車椅子の固定方法

- ① 車椅子を福祉車両の所定の位置に合わせたら、車椅子のブレーキをかけてください。
- ② 前方左右の固定ベルトのフックは、前足フレームに設けてある車載固定部に左右それぞれ掛けてください。(写真1)
- ③ 後方左右の固定ベルトは、座フレーム後部の左右にあるフック受けケージの太いパイプ部分にフックを掛けてください。(写真2)ベルトは、できるだけ真後ろに引いてください。(写真3)フックは決して細いケージ枠の部分に掛けないでください。(写真4)。



写真1
前側のフックを車載固定部に掛ける。



写真2
後側のフックをフック受けケージに掛ける。

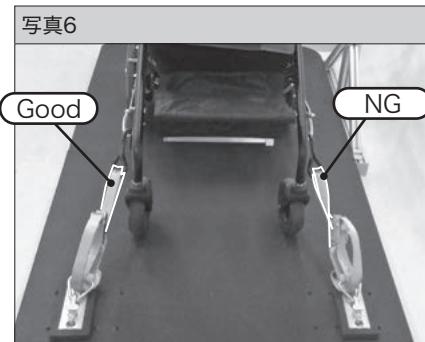
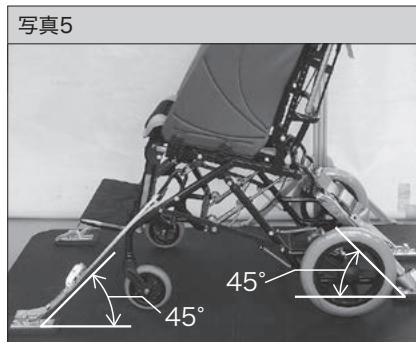


写真3
後側の固定ベルトはできるだけ真後ろに引く。



写真4
後側のフックの誤った掛け方

- ④ 固定ベルトの引き方向が調節できる場合は、前後の固定ベルトの床との角度が45°に近くなるようにしてください。(写真5)
- ⑤ 固定ベルトはできるだけ捻じれが少なくなるように掛けてください。一回転以上捻じれている場合は必ず捻じれを戻してください。捻じれて張られた固定ベルトは走行中に緩むことがあります。(写真6)
- ⑥ 固定ベルトは、できるだけ途中のベルト部分が車椅子のフレームや車輪に接触しないようにしてください。走行中に接触箇所がずれてベルトが緩んだり、擦れによってベルトを劣化させてしまうことがあります。
- ⑦ 車椅子を固定したあとは、絶対にティルト角度の設定を動かさないでください。



- 搭乗者の手足や腕、衣服や搭載品などが車椅子や固定ベルトなどに挟まれないように注意してください。
- 指定されている位置以外には固定しないでください。
- 走行前に固定ベルトが捻じれていなか、また確実に固定されていることを確認して下さい。確実に固定されていないと走行中に車椅子が動きだし、転倒したり車椅子が破損するなどの重大な事故につながるおそれがあり危険です。

■ (重要) 車両に装備されたシートベルトの装着方法とティルト角の設定について

搭乗者は、車両の取り扱い説明書に従った方法で車両の3点式シートベルト(腰ベルト、肩ベルト)を必ず装着してください。搭乗者が車両に装備されたシートベルトをしていない場合には、急停止の際に搭乗者が車椅子を離れて前へ飛び出すのを阻止できません。

本車椅子はティルトリクライニング機構による姿勢変換機能を備えていますが、車載使用時には図1に示すようにバックサポートが水平からの起こし角で75°～80°に設定されて前を向いている姿勢が理想的です。(本製品は、バックサポートが水平からの起こし角で75°の条件で衝突安全テストに適合しています。)搭乗者の身体的な事情でこのような角度まで起こせない場合は、できる範囲でティルト角を起こしてください。

但し、座フレームが水平よりも前傾する設定にはしないでください。

図1のような前を向いた姿勢や、車両の取り扱い説明書にあるような標準的なシートベルトの装着が難しい場合には、急ブレーキがかけられた時に搭乗者に起こる慣性的な動きを少しでも車両のシートベルトで受け止められるように努めてください。

図2に示すようなバックサポートを倒した設定になっている場合、急ブレーキ時には上半身がシートベルトの内側を滑り抜けて前方へずれやすくなります。臀部が座面に押し当たるので全身が滑り抜けて前に飛び出することは防がれますが、上半身が圧縮されるようなダメージを受けるリスクが高くなります。

図1のように車両のシートベルトが機能している場合、搭乗者の上半身の飛び出しは肩ベルトがほぼ真後ろに引き止め、下半身の前への飛び出しは腰ベルトが斜め下に引き止めて座面に押さえつける動きに変えます。車椅子は、この座面に下向きにかかる荷重に耐えることで急減速時の衝撃を受け止めます。本車椅子は、アクシデントに際して、車両のシートベルトなしに搭乗者を受け止めることはできません。

図1

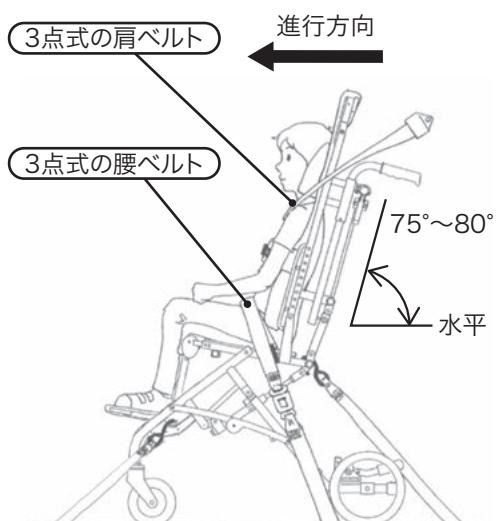
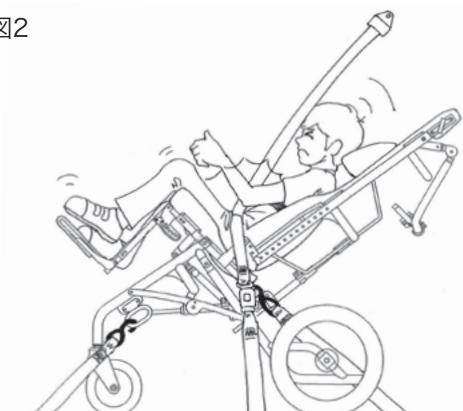


図2

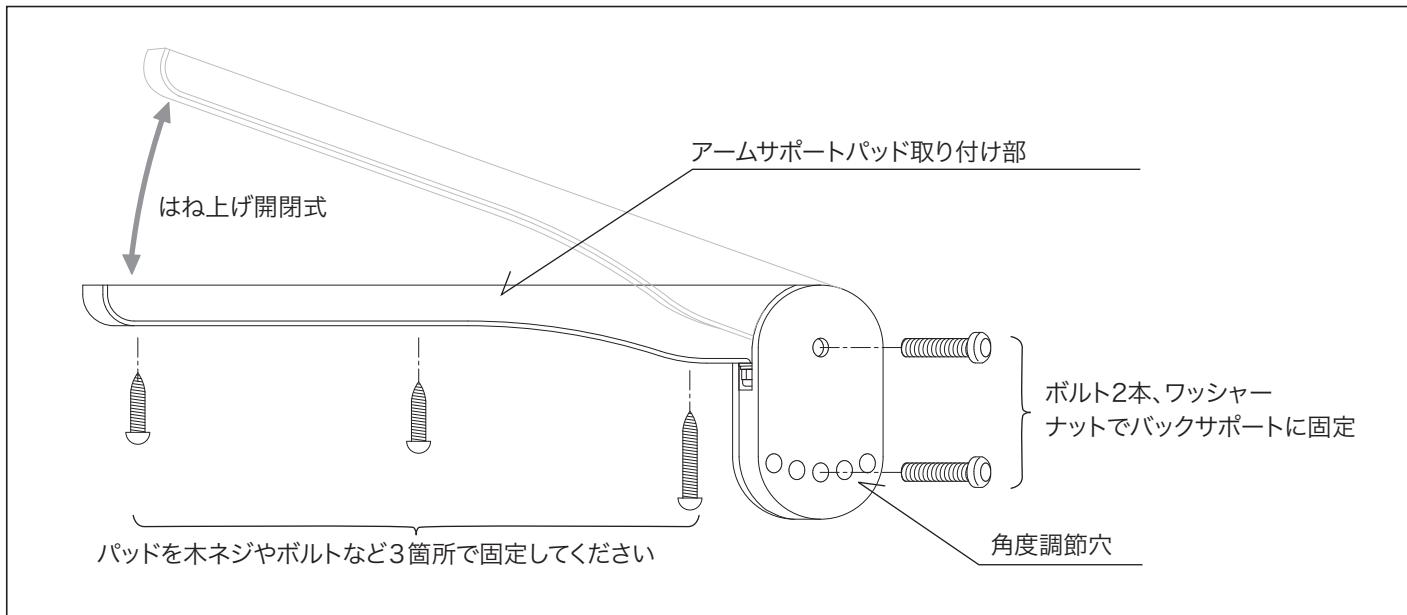


- 車椅子での乗降は必ず介助者が行ってください。
- 安全のため車椅子本体に取り付けられている(処方された)ベルト類と車両の3点式シートベルトはどちらも必ず装着してください。
- 発進前に車椅子が確実に固定されていることを再確認してください。

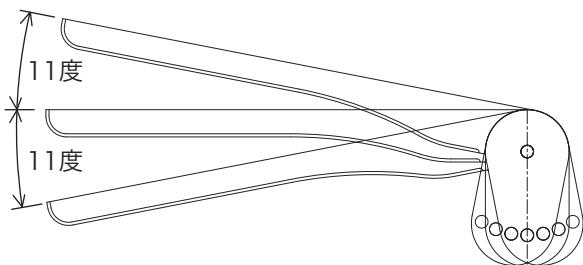
アームサポート金具の取り扱い

当社製の車いすや座位保持装置に取り付けることができる、はね上げ開閉式のアームサポート金具です。

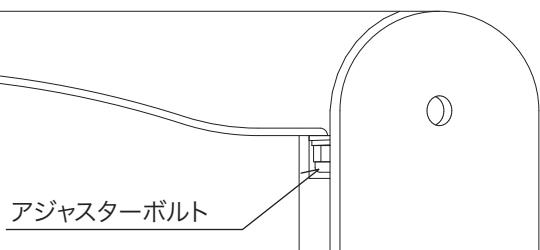
側方から乗り降りする際には、アームサポートをはね上げることにより移乗の負担を軽減することができます。また、バックサポートの起こし角度に応じて角度設定も調節できます。



■角度調節穴



下側のボルト位置を差し替えると、中心から前後2段階づつ
11度刻みで角度が変更できます。

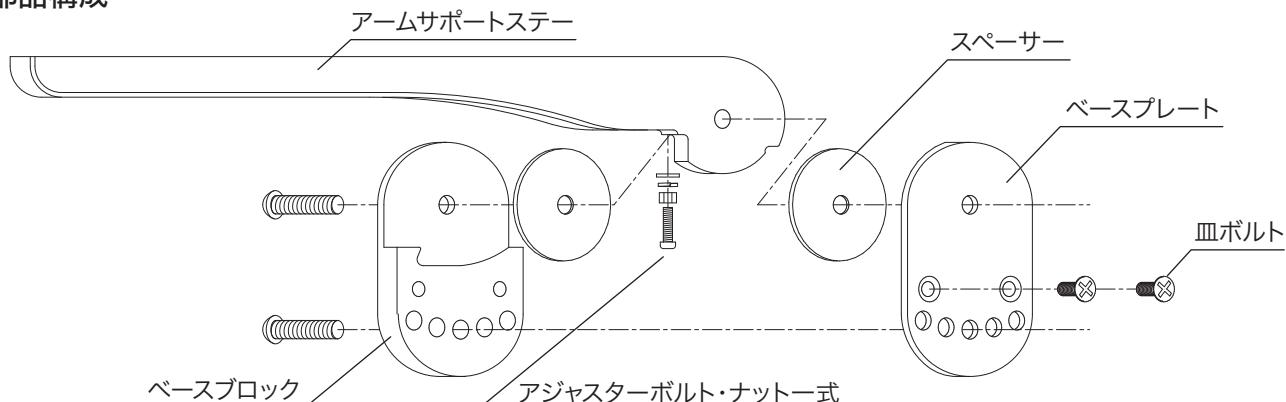


アジャスター bolt は基本的に左右の平行を調整するための
ものですが、角度の微調整も可能です。
※この部分に指やものがはさまらないように注意してください。



- 必ずアームサポートパッド(肘あて)を取り付けて使用してください。
金具のみで使用すると、アームサポートステーの先端などでけがを負うおそれがあり危険です。

■部品構成



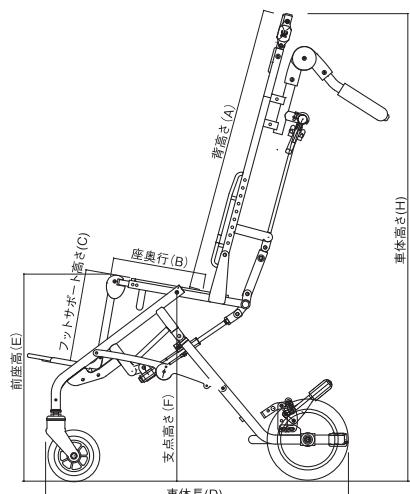
仕様

		Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ	LLサイズ(後輪12in)	LLサイズ(後輪8in)
背幅／座幅	mm	360／363	360／363	385／388	425／428	425／428
背高さ (A)	mm	650～710	700～760	770～830	780～840	780～840
座奥行き (B)	mm	185～245	230～310	280～380	350～430	350～430
フットサポート高さ (C)	mm	85～265	225～345	245～385	295～435	295～435
前座高さ (E) ※ティルト角10°のとき	mm	503	507	530	545	545
支点高さ (F)	mm	464	464	484	482	482
車体寸法 (W×D×H)	mm	540×740×1100	540×740×1140	565×775×1230	650×855×1240	610×855×1240
折りたたみ寸法 (W×D×H)	mm	540×380×745	540×445×770	565×490×820	650×550×860	610×490×840
ティルト角度	度	41°	40°	40°	38°	38°
基本重量	kg	12.4	13.4	14.6	16.6	15.6
調節スリングシート	材質	ナイロン100%				
シートユニット	材質	ポリエステル100%				
対応身長	cm	約90～110	約110～130	約120～140	約145～167	約145～167

■上記の寸法表は、基本的な装備、シートユニットでの計測値であり、部品の構成によって重量や寸法などが異なる場合があります。

お手入れ・メンテナンス

- フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布で拭きとってください。
※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることができます。
※特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。
- 可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。
※メカニカルロックやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。
- シートを洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。
- アームガードを洗うときは、中性洗剤を使用して手洗いしてください。十分にすすいでから絞らずにタオルなどで水気を取り、形を整えて陰干ししてください。洗濯機、乾燥機は絶対に使用しないでください。
- インナーパッド、ヘッドサポートは、ファスナーによる開閉式です。
ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。
- 調整や修理などは、まず納品された取り扱い業者にご相談ください。
保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすことがあります。



MEMO

MEMO

製造・発売元

株式会社 きさく工房

〒811-2126 福岡県糟屋郡宇美町障子岳南5-10-11
TEL 092-932-7600 FAX 092-932-1037
E-mail info@kisakukobo.jp

取り扱い業者・連絡先

2025.9